



# マラリアへの果敢な挑戦

「グラクソ・スミスクライン・アフリカ・マラリア・パートナーシップ」

GLOBAL COMMUNITY PARTNERSHIPS



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと  
Do more, feel better, live longer



## マラリアへの果敢な挑戦

世界人口の約半数もがマラリア伝播蚊の刺咬によりマラリア感染のリスクにさらされています。また、毎年推定2億2500万人もの人々がマラリアに感染しています。

マラリアは、100カ国以上で蔓延しており、ほとんどの感染はサハラ以南のアフリカ諸国、東南アジアおよび中南米で見られます。また、マラリアによる死者の90%は、サハラ以南のアフリカ諸国でおきています。

マラリアは、ヒトの血を吸うメスのハマダラ蚊 (*Anopheles*) により伝播されますが、マラリアにまつわる数々の迷信が存続し、その原因が季節、霊的信仰や食生活に起因しているなどと言われています。

マラリアの初期症状には、発熱、頭痛、倦怠感、疲労、吐き気、筋肉痛および軽い下痢があります。感染は、急速に進行することもあり、錯乱状態、痙攣など重篤な症状に続いて昏睡状態に陥り死に至ることもあります。

マラリアの蔓延地域の人々は、マラリアに対する免疫が部分的にできます。部分免疫のある人々は、マラリアを発症すると、通勤や通学に支障はありますが、死に至る可能性は低いとされています。一方、小さい子供は、まだマラリアに対する部分免疫ができておらず、また妊婦は免疫がなくなってしまうので、マラリアが重症化するリスクが最も高いのです。このため、マラリアによる死亡の大半は、5歳未満の子供およ

び妊婦が占めています。

最近の経済調査によるとマラリアは、アフリカにおける経済成長を毎年最大1.3%減速させていることを示しています。マラリア関連疾患および死亡率は、アフリカの経済だけで毎年120億米ドルの損失をもたらしています。

マラリアは、マラリア伝播蚊の繁殖をコントロールし、低コストの殺虫剤を塗布した蚊帳などを用いることにより予防できます。さらに、安価な薬剤を適正な用量と期間投与することにより効果的な治療が可能です。

グラクソ・スミスクライン (GSK) は、マラリアの影響を受けている地域の人々の健康の向上に重要な役割を果たすべく3つの分野に取り組んでいます—それは1) 新規薬剤およびマラリアワクチンの継続的研究、2) 世界の後発開発途上国およびサハラ以南の全てのアフリカ諸国に抗マラリア薬を優遇価格で提供、そして3) 「グラクソ・スミスクライン・アフリカ・マラリア・パートナーシップ (AMP)」プログラムによるマラリアの罹患率と死亡率の削減を目的としたコミュニティ投資活動への資金提供です。

## GSKアフリカ・マラリア・パートナーシップ (AMP)

アフリカ・マラリア・パートナーシップ (AMP) は、サハラ以南のアフリカ諸国におけるマラリアの予防と治療の向上を目的に2001年に設立されました。以降、GSKは、マラリア対策の取り組みに300万英ポンド以上を投資してきました。

AMPのプロジェクトの包括的目標は、コミュニティ・ヘルス・ワーカーが初期段階でマラリアを確認することができるように、その知識と能力の向上に各パートナーと連携しながら取り組むことであり、その結果できるだけ早く効果的にマラリアを治療できるようにすることです。加えてGSKは、既にマラリア対策に取り組んでいる団体が、それらのコミュニティ・プログラムを資金提供期間の終了後も継続していけるよう、各団体をサポートしています。これらのプロジェクトは、コミュニケーションの向上、マラリア啓発の向上、何千もの蚊帳の配布による実用的な支援の提供を目的としています。

AMPを通じてGSKは、3年間にわたり総額150万英ポンドを、ナイジェリア、ガーナ、タンザニアおよびケニアにおける200万人近い人々を対象とする4つの活動を促進するために、資金を提供しています。各国のマラリア国家プログラムや非政府組織とのパートナーシップによりAMPは、特にマラリアの影響を受けている地域において最も感染しやすい子供、出産年齢の女性、HIV/AIDSと共に生きる人々に、より良いマラリア予防・管理対策へと導く適切で効果的な行動育成を支援しています。

## GSKのパートナー

### AMREF – African Medical and Research Foundationのタンザニアでの活動

AMREFは、良質で支払い可能な医療を、それを最も必要としている人々に提供しており、治療へのアクセスを向上させ、コミュニティへの啓発を通じて疾患を予防することに貢献しています。AMREFは、医療制度を強化し、人々が積極的に参画することで医療へのアクセスを向上させる介入策に取り組んでいます。

タンザニアでは、国の疾病負担の30%以上をマラリアが占めており、5歳以下の子供の総死者数の36%がマラリアで亡くなっています。この負担による経済への影響は、毎年3.5%のGDPの損失をもたらしていると推定されています。

南タンザニアの農村地域においては、以下のいくつかの要因が、マラリア関連の問題を悪化させています。

- ・コミュニティの健康に関する知識と情報のレベルが低い。これは例えば、低い識字率や文化的信条が健康希求行動の障壁となっているためで、一般的に信じられていることとして「蚊帳の下

で寝ると悪夢を見る」や「発熱は魔術に関連している」などがあります。

- ・医療施設が少なく、コミュニティから遠く離れているためアクセスできないことからコミュニティのニーズに十分に対応することができない公的医療制度。貧困レベルが高いことから人々は、交通費を払うことがほとんど不可能であり、従ってコミュニティにおいて医療サービスをより身近なものにすることが急務となっています。

- ・地方および国レベルでの保健行政における医療制度上のマラリア対策の計画・管理能力が低い。

AMREF は、タンザニアのムトワラ州タンダヒンバ県の医療サービスを十分に受けられない地域で活動しており、AMPはそれを支援しています。このプロジェクトの目標は、以下の通りです。

- ・172名のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを教育し、政府のマラリア撲滅対策を補完する。

- ・コミュニケーション、文化的活動、演劇、資料、村が開催する健康デーを通じてコミュニティが、マラリアとの闘いの前線に立つようにする。

- ・出産年齢の女性、5歳以下の子供、青少年およびHIV/AIDSと共に生きる人々を

対象に43の村の40,000人に対して本プロジェクトを実施する。

またAMREFは、肺炎、貧血、下痢性疾患、栄養不良、HIV/AIDSといった他の重要な疾患との闘いにおいても各コミュニティと、横断的に取り組んでいきます。これらの一般的な疾患は、マラリアにより悪化することが多いため、これらを発見できるよう医療従事者を教育します。





## Save the Children—ケニア

長年の干ばつは、ケニアの子供たちの健康に深刻な影響を及ぼしてきました。栄養不良、疾患の罹患率、死亡率は劇的に増加しています。大いに待ち望まれているエルニーニョによる雨は、早急な対応を必要としている水不足問題に対応する一方で、洪水や破壊をもたらすため、この状況はさらに悪化するでしょう。

雨が降った後は、洪水でたまり水ができたり、井戸や水源が汚染されるため、マラリア、肺炎、下痢性疾患に罹る子供たちの数が急増します。このためマラリアの罹患率は、季節性の罹患率よりも平均80%増加すると推測されています。これは、特に、すでに栄養不良のためマラリアに感染しやすい5歳以下の子供や妊婦にとって危険な状況です。5歳以下の子供で蚊帳を使用して寝ているのは15%しかおらず、発熱した場合抗マラリア薬を服

用しているのは27%のみとなっています。

長引く干ばつや現在起きている洪水の被害を最も受けているのは、ケニアの北東部州に所在するワジル県とマンデラ県で、Save the Childrenは、これらの地域に対して既に緊急医療・栄養不良対策を実施しています。

GSKは、Save the Childrenと提携し、5歳以下の子供38,000人と10,000人近くの妊婦を対象にプロジェクトを3年間実施します。

本プロジェクトは、ワジル県およびマンデラ県で洪水の被害にあったコミュニティのマラリア流行の発生リスクを削減するために、以下の実現を目標としています。

- ターゲットとしているコミュニティの85%以上に、効果的なマラリア対策が実施されている。これには、25,000張りの蚊帳の配布や、教育、情報、コミュニケーション資材の配布などがある。
- 医療従事者が、マラリアの症例管理方

法の教育を受けており、その結果、対象地域の既存の医療インフラが強化される。

- コミュニティが、効果的なマラリア診断および治療サービスにアクセスできる。そのため、マラリア予防および小児における発熱管理について160名のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを教育すると共に、ヘルス・ワーカーが週2回家庭訪問し、マラリアに関する勉強会を実施する。

Save the Childrenは、保健省と連携しながら本プロジェクトに取り組んでいきます。本プロジェクトで実施される介入策は、長期的で持続可能な効果をもたらすよう、ケニアのマラリア管理方針と戦略に合致したものとなっています。またSave the Childrenは、村の既存のヘルス・コミュニティと連携しながら、既に確立されている制度をさらに構築し、強化していくことを目指していきます。

## Planned Parenthood Federation –ナイジェリア (PPFN)

マラリア管理は、優先されるべき健康課題としてナイジェリアの医療政策で定められています。従ってナイジェリアは、マラリアの影響を緩和させるためにいくつかの取り組みを行ってきました。

ナイジェリアでは、これまでマラリア対策が講じられてきましたが、この予防可能で、治療可能、完治可能な疾患は、依然として罹患率と死亡率の大きな原因となっています。ナイジェリアの総人口の90%以上がマラリア感染のリスクにさらされており、全国で流行している疾患です。少なく

とも人口の50%が毎年1回マラリアを発症しています。

GSKは、以下を目標に6つのコミュニティで、Planned Parenthood Federationを3年間にわたりサポートします。

- ・プライマリ・ヘルスケア・センターに報告されるマラリアの症例数を20%減らす。
- ・対象地域の住民が使用する殺虫剤塗布帳を60%増やす。
- ・子供と妊婦におけるアルテミシニンをベースにした併用療法 (ACT) を20%増やす。
- ・対象者は、エド州、エヌグ州、オヨ州、ナサラワ州、ジガワ州、ヨベ州で感染リスクのある140万人とする。

本プロジェクトの中心的概念は、コミュニティ内で適切な行動を推進し、ベストプラクティスを奨励することです。このためPPFNは、以下に取り組んでいます。

- ・多くの参加を促すために、特定の地区におけるコミュニティ開発委員会の機能を強化する。



- ・マラリア感染の予防・管理のために行政機関、医薬品供給者、宗教リーダーと提携する。
- ・健康増進に向けた適切な行動を促進するためにコミュニティ・ヘルス・ワーカー、教師やピア指導員を育成し教育する。
- ・衛生調査員と環境管理活動を行い、媒介生物を管理するために、幼虫駆除剤を使用し、蚊の繁殖地を除去する。
- ・プロジェクト実施コミュニティでマラリア予防・治療が効果的に行われるようマラリア対策用品を配布する。



## Family Health International (FHI) ガーナ

ガーナではマラリアは、罹患率と死亡率の主要原因の一つとなっており、特にガーナのブロン・アハフォ州では、一人が毎年7回も発症することがあります。ブロン・アハフォ州のプルとセネの地域は、その大部分が農村地域であり、衛生状態が悪く、開発援助もほとんどないことからマラリア感染のリスクが高くなっています。これは、特に妊婦と5歳以下の子供で問題であることから本プロジェクトは、主に妊婦と5歳以下の子供に、また介護者やコミュニティ・ヘルス・ワーカーに焦点を当てています。

マラリア関連の罹患率・死亡率を削減するためにGSKは、ガーナの農村地域で持続性の強化と能力育成に焦点を当てたプログラムを支援しており、このことにより、コミュニティ全体がオーナーシップを持ってプログラムに積極的に参加できることを目指します。

本プロジェクトの目標は以下の2つがあります。

- ・マラリアの早期発見を増やし、症状の発現後24時間から48時間以内に適切な治療を提供する。
- ・コミュニティのレベルで知識や認識、予防のための行動力を上げ、コミュニティ全体の参画を上げる。これは、コミュニケーションと教育の強化、手製のマラリアキットの配布、Mothers Against Malaria (MAM) グループを支援することにより実現する。

Family Health International (FHI) と取り組む本プロジェクトは、3年間にわたるもので、ガーナのブロン・アハフォ州のプルとセネの地域におけるマラリアの罹患率・死亡率の削減を目指しています。FHIは、58以上の主要コミュニティの約170,000人を対象に実施することを目標としており、幅広いステークホルダーとコミュニティの実力者を巻き込み、コミュニティがオーナーシップを持って取り組むことを目的としています。



## これまでのマラリア・パートナーシップの援助

ここ10年間、GSKは、特定分野に焦点を当てている様々な機関と連携することで、マラリア感染を削減し、コミュニティの人々の生活の質の向上に努めてきました。

この支援には、以下の機関とのパートナーシップがありました。

**Credit With Education - Freedom From Hunger**と取り組んでいるプログラム。**Freedom From Hunger**は、慢性的な飢餓と貧困対策に60年間以上の実績がある団体で、本プログラムは西アフリカの金融機関と連携し、ベニン、ブルキナファソ、ガーナ、マリおよびトーゴの極めて貧しい女性を対象に、金融サービスの提供や医療・ビジネス教育と連結させたマラリア教育を実施。

**Plan Sudan** - 子供に焦点を当てた組織である**Plan International**の一部である**Plan Sudan**は、白ナイル州の地域におけるマラリアの罹患率および死亡率の削減を目的にGSKとスーダンの**National Malaria Administration**と協力。

**Uganda Malaria Partnership Programme (UMPP) - African Medical Research Foundation (AMREF)**とのパートナーシップで、ウガンダの3つの地域を対象に特に5歳未満の子供と妊婦に焦点を当て、コミュニティをベースにしたアプローチでマラリアによる死亡率と罹患率の削減を目指した取り組み。UMPPは、**National Malaria Control Programme**、**AMREF Uganda**、**Uganda Red Cross Society**、**Africare Uganda**および**Communication for Development Foundation Uganda**との共同で行われた。

**Mobilising for Malaria - Malaria Consortium**と4年間にわたるパートナーシップは、欧州およびアフリカにおいてマラリアに対する認知度、政治的コミットメント、持続可能な資金提供を向上。現在**National Coalitions Against Malaria**が英国、ベルギー、フランス、エチオピア、カメルーン、モザンビークで立ち上がり、先進国と途上国の政治家、メディア、一般の人々に情報を提供。

**グラクソ・スミスクライン**は、人々が心身ともに健康でより充実して長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としており、私たちが開発・販売している医薬品やワクチンを通してだけでなく、幅広い社会貢献プログラムを通じてこの企業使命を追求しています。

## ウェブサイト

グラクソ・スミスクライン・アフリカ・マラリア・パートナーシップについての詳細は、<http://www.gsk.com/malaria>をご覧ください。

## 連絡先

The Malaria Programme Director  
Global Community Partnerships  
GlaxoSmithKline  
980 Great West Road  
Brentford, Middlesex  
TW8 9GS, UK  
E-mail: [community.partnerships@gsk.com](mailto:community.partnerships@gsk.com)

グラクソ・スミスクラインは、本冊子に表示されたいかなる第三者の商標に対して所有権および関連性を有していません。またこれらの商標を使用したからといって、グラクソ・スミスクラインが後援あるいは推奨しているわけではありません。

本冊子のコンテンツの一部は、その中で表示された人や団体が提供したもので、それらは必ずしもグラクソ・スミスクライン・グループの見解を示しているとは限りません。

## 発行・問い合わせ

グラクソ・スミスクライン株式会社 広報部 Tel: 03-5786-5030 <http://glaxosmithkline.co.jp>  
2012年4月発行

